

☆特別支援教育について

通常の学級に在籍する小中学生の8.8%に「学習や行動に困難のある発達障害の可能性がある」ことが、文部科学省の調査で分かりました。2012年の前回調査から2.3ポイント増えました。西の里小学校では、ひとり一人のお子さんへの支援の必要性を確かめ、ご家庭と協力しながら全児童生徒への特別支援教育を行っています。

○様々な困難さ、とは…

◎学習面では…

- ✓ 「理解力」による困難さ⇒聞く、話す、読む、書く、計算する、推論するなどの学習活動で、努力しているのに成果につながらないなど。

◎行動面では…

- ✓ 「不注意」による困難さ ⇒ 忘れ物が多い、整理整頓が苦手、順序立てて行うことが苦手、物をよくなくすなど。
- ✓ 「多動性」による困難さ⇒落ち着きがない、体の一部分がいつも動くなど。
- ✓ 「衝動性」による困難さ⇒順番が待てない、過度にしゃべる、質問が終わらないうちに答える、他人がしていることをさえぎったり、邪魔したりするなど。
- ✓ 「対人関係」による困難さ⇒何でも言葉通りに受け止めてしまう、その時の場面や相手の感情や立場を理解できない、友だち関係をうまく築けない、友だちと一緒にいても一人で遊んでいるなど
- ✓ 「こだわり」による困難さ⇒自分だけの知識世界をもっている、強くこだわることによって日常生活に支障が生じる、独特な日課や手順があり、変更や変化を嫌がる、特定の物に執着するなど。
- ✓



○抱えこまずに相談を

- 一人ひとりの発達のみちのりは多様です。目標までたどり着く速さにも個人差があります。学校では、どうしてつまづいているのかを明らかにして、どのようにしたらつまづかないですむのか、保護者と一緒に具体的に方策を考え、子ども自身が自信をもって学習したり、安心して生活したりできるよう対応していきます。
- 西の里小学校の「子ども支援」は、すべての子どもを対象にしています。「漢字が覚えられない」「友だちとトラブルが多い」「何回言っても伝わらない」「家庭でどのように対応したらいいのか」など、これはちょっと気になる心配だなど感じたら、誰でも良いのでお話しやすい学校の職員へ、ひと声かけて下さい。
- 学校だけでは解決が難しいことは、より専門的な諸機関と連携するように努めています。子どもを取り巻く環境が複雑になり、生じる課題も多様になっていることから、専門家とも連携しながら望ましい支援を計画していきます。